

第24号

●北部支部総会
●島渡りパーベキュー交流会
●北部支部会員紹介
●7月県例会／座右の銘シリーズ
編集後記

北部支部

Yanbaru Jinbun

やんばる
じんぶん

発行
沖縄県中小企業家同友会
北部支部広報委員会
TEL:098-859-6205
FAX:098-859-6208



▲川上副知事

去る五月十四日、第二十三回北部支部総会が開催されました。今年度の総会の記念講演は『新たな地域振興の取り組みに向けて』というテーマで、今年の四月に就任された川上好久副知事に講演をいただきました。

とてもリアルなデータや数字と共に、沖縄の地域特性、転換期にある沖縄、新たな沖縄振興の視点と手法という実践的なもので、我々中小企業にとって貴重な講演でした。

私がとりわけ印象に残ったのは、



▲熱心に講演を受ける会員のみなさん

日本が急速な少子高齢化、人口減少に直面しているにもかかわらず、沖縄は日本の中で最後まで人口が伸び続ける地域という確かな将来予測があるという内容でした。

地方や離島は若者の減少という問題が必ずあるなか、沖縄はその問題をクリアしています。若者の雇用、また起業などにより沖縄の経済が発展すると、基地問題、グローバル化、円相場などの対

外的な要因にも耐えうる強い沖縄になるのではないかと思いました。

もちろん本土、外国の企業や人が沖縄で活躍してもらうことは必要であります。ですが、従来の大規模工場誘致などの地域振興モデルに頼ることは、グローバル化による国外移転など不安材料が考えられます。

川上副知事は、やはり地域・産業の振興は結局のところ個々の企業が利益を上げていかないと不可能だとお話されていました。そのことをふまえると、我々中小企業が見えなくてはならないかと感じました。

沖縄振興を支える副知事が北部出身ということをとて誇りに思います。北部から発信していきることがこれからは増えていくことに期待を持ち、頑張っていこうと自分でも意識づけられたとても素晴らしい講演でした。



▲会員のみなさんによる「かぎやで風」



最後に、川上副知事がこうおっしゃっていました。

『今、確実に沖縄にいい風が吹いている』

株仲屋商事
屋部 憲史朗

七月県例会

『資金繰り地獄からの逆転劇』

～新たな発想で、年商一、八〇〇万の畳屋が～

～講師：株式会社キツタ力社長 橋高勝人氏～

▲株式会社キツタ力の
橋高社長

去る七月三日(水)に沖縄産業支援センターにて、今年度第一回目の県例会が開催されました。今回の報告は、東京同友会に所属している株式会社キツタ力の橋高社長に依頼し、『資金繰り地獄からの逆転劇』新たな発想で、年商一、八〇〇万の畳屋から四十億の畳総合商社へというテーマで報告して頂きました。

元々体が弱く、将来は医者になる事が夢だった橋高社長。しかし高校生の頃、株式会社キツタ力を経営していた父親が脳梗塞で倒れ、その代わりに会社を切り盛りしていた母の苦勞を目の当りにし、自分の夢を諦め現在の株式会社キツタ力へ入社を決意したそうです。

入社した当初は一人の職人と母親と三名で運営、七坪



の作業場、軽トラック1台、年間一、八〇〇万円の売上からのスタートでしたが、自身のストリートな気持ちと思い立つたらず行動に移す行動力、大手ゼネコンからの受注が増え、売上も右肩上がりに。そして念願であった大型トラックを購入出来るまでになりました。

しかしそんな好調経営の中で思いがけない事態を迎えます。売上ばかりに集中してしまい、資金繰りが全くとてお



激動に変化する時代の中で、常に新しいことに取組み、アグレッシブに挑戦し続ける橋高社長。株式会社キツタ力の今後の展開に注目です。

南西食品株式会社
中本 泰一郎

「君の笑顔に
我は舞う」

他人の嘆き悲しみに一緒に泣き、他人の幸せ、喜びに心から讃えた。

(有)ゴヤーパーク
事務取締役
山根 毅

「素直であれ」

判断を迫られた時に、目先の事だけにとらわれず、一番良い状態の未来の自分をイメージし今と選ぶこと。

美音
Space Design (株)
代表取締役
比嘉 伝英

まず初めに、今号の発行に当たりご多忙にもかかわらず、寄稿・協力いただきました会員の方々に感謝申し上げます。私は今年度より広報委員会に入り、前号から編集に参加させていただきました。不慣れな私を優しくご指導いただきました委員会の皆様にも心よりお礼申し上げます。

さて、お陰様で、予定通り「やんばるじんぶん第二十四号」を発刊できました。

今回の記事内容は、総会や県での発表、島渡りイベントの報告記事に加え、座右の銘コーナーや会員紹介インタビューなど盛りだくさんになっております。これからも、ためになる情報、楽しいニュース、やる気が湧いてくるような素晴らしいお話を掲載していけるよう、会員の皆様のご意見も頂戴しながら委員会の皆さんと一緒に頑張っていきたいと思っております。

最後に、今号を完読下さりありがとうございます。

(高木 朋子)



島渡りバーベキュー交流会 in 屋我地島

毎年恒例の島渡りバーベキュー交流会が、6月23日(日)に行われました。

その日は、慰霊の日と沖縄行事ウマチーと重なり、もしかしたら参加者が少ないのでは?と気になっていましたが、約三十数人の方々が参加し、大いに盛り上がりました。

照りつける太陽の中、海の中を歩き、泳ぎ、水中でゆらゆらとゆらめくモズクを採取するなど楽しいひと時を過ごしました。

採ったモズクをみんなで「美味しい!美味しい!」と食べたときは、『なんて素晴らしい大自然に囲まれているんだろう』と興奮気味になりました。

日々仕事に追われ、近くに海があってもなかなか足を運ぶことがない私たちですが、この日は、海の美しさ、太陽の暑さを実感することができました。

海を渡れば、次は美味しいバーベキュータイム!! 疲れた体は食欲もりもり! とても美味しくいただきました。今年も、準備から案内までご尽力いただいた座間味真さん(沖縄クルマエビ(株) 社長)ありがとうございます。お陰様で、家族みんなで自然とたわむれ、有意義な一日を過ごすことができました。来年も楽しみにしています。

今年もご一緒した皆さん、残念ながら参加できなかった皆さんも、来年はぜひ家族みんなで参加して一緒に自然を満喫しましょう!!



北部支部会員紹介

株式会社エスプレ代表取締役社長・濱畑直哉氏に聞く

「障がい者の社会参画のための就労支援」

去る七月十一日、広報委員長の山城一以下、五名の広報部員で障がい者の就労支援事業を展開している株式会社エスプレが経営する飲食店「カフェヒブノ」に伺い、濱畑氏にインタビューをしました。

崎浜:

「まず、『エスプレ』という名称の由来を教えてください。」

濱畑:

「『エスプレ』とはフランス語で『希望』という意味なんです。この場所に来るすべての人の希望になりたいという思いを込めてそう名付けました。」

崎浜:

「それは素敵ですねーミシングですね。障がい者の就労支援事業と伺っているのですが、起業までの経緯を伺えますか?」

濱畑:

「私は二十五年間、公務員として働いてきましたが、思うところあって退職し3年前にこの事業を立ち上げ

ました。常々、障がい者の方々を支援するということは、単に擁護するということではなく、『生きがい』を持つて生きていくことが本当の意味での障がい者支援になると考えております。」

安次富:

「素晴らしいお考えです。では、エスプレの企業コンセプトとはなんでしょうか?」

濱畑:

「一言でいえば『クオリティオブライフ』です。以前の障がい者支援の在り方は、福祉として『やっつもらうだけ』だったのではないのでしょうか。人間はただ生きていくだけではなく、『働いて収入を得、納税義務を果たす』など、誰かの役に立っている、という実感が『生きがい』につながると思っています。」

障がい者の方も健常者の人たちと一緒に社会参画し、質の高い人生を送ってもらいたいということが当社の企業理念(コンセプト)です。」

山城:

「では、具体的にどのような

事業を展開されているのでしょうか?」

濱畑:

「現在、エスプレでは四つの事業を展開しております。北部地域初の植物工場・無添加と素材にこだわったベーカリー・エクセルやワードの資格取得を目指す一般事務コースでのパソコン訓練、そして、今いるここ『カフェヒブノ』もそのひとつで、就労移行支援の二年間で調理師免許受験資格も得られます。」

高木:

「そうですね。しかし、ここで働いているスタッフの皆さん、とても障がい者には見えませんが…」

濱畑:

「ここにいるスタッフの半分は障がい者ですよ。障がい者には『知的障がい・精神障がい・身体障がい』の三種があります。皆さんはここで数か月から最長二年間、職業に就けるまでの練習をし、社会適応能力を向上させています。成功体験を与えることで自信がつくんで

す。そのためにみんな努力しています。」

崎浜:

「同友会への入会のきっかけなどもお聞かせ願えますか?」

濱畑:

「会員の新里さんの勧めで入会しました。事業を展開していくと会社内部や対外的なことでも様々な難しい問題に直面しますよね。困難を乗り越え切り開くための知識や経験を得たいと思ったからです。入会してからは、企業家同士と一緒に前に進んでいるという一体感が心地よくなりましたね。その感覚を大事にして地域に貢献していきたいという目標も出来ました。」

崎浜:

「では、同友会に入会してよかったということですね。最後に、これからのビジョンをお聞かせください。」

濱畑:

「具体的には障がい者の雇用の場を広げることですね。そのため植物工場を拡大していきたいと考えています。屋内で水耕栽培で作る葉野菜は、収穫が天候に左右されないため安定供給できますし、無農薬なので安心安全です。」

あまり先の話をすると鬼も笑いますが、地道に足元を固め『障がい者が普通に關われる社会を目指す』という沖縄の二十一世紀ビジョンに沿った事業を進めていきたいと考えています。」

金城:

「素晴らしいお考えで感服します。これからも北部地域、いや沖縄のために頑張ってください。」

株式会社エスプレ

沖縄県名護市大東三丁目十八ー一二
TEL 〇九八〇ー四三ー七五一二

